2015年（平成27年）1月22日（木曜日）
日刊建設工業新聞

2015展望

基礎・地盤工事

日特建設
中森　保社長

地盤改良の受注高2割増目標

全9カ年の経営計画の最終段階に当たる「STEPⅢ」（14～16年度）が進行中だ。「挑戦」をテーマに掲げ、効率的な収益確保と将来の建設市場の変化を見据えた事業戦略・組織を構築する期間と位置付けている。

上半期は特に、震災復興や災害予防保全関連の手持ち工事を順調に消化できた。受注時の損益管理を徹底するなどの取り組みも奏功し、純損益で16年ぶりに黒字を達成できた。好転した受注環境が追い風で、良い流れに乗って計画は順調に進んでいる。

3～5年先を見据えた準備として、海外事業を強化したい。現在はインドネシアの南ジャカルタに置く駐在員事務所を拠点に受注活動を展開している。日系ゼネコンからの受注を中心に実績を重ねており、インドネシアのリゾート地の斜面崩壊復旧工事ではアンカーフレーム工事を施工中だ。将来は国内の公共工事の落ち込みを海外で補完できるようにしたい。

国内は得意の山岳部に加え、都市部でも地盤改良工事の市場を開拓し、16年度に地盤改良分野の受注高を20％増やすことを目指す。

リニューアル市場では、橋梁やトンネルに続き、のり面の市場が拡大すると予測される。既存技術を現代のニーズに合うように改良しているほか、独自の診断技術などを強みに総合的にマネジメントできる体制を構築している。

2020年東京五輪までは国内建設市場は堅調に推移するとみている。われわれ専業からすると建設投資の中心が新設から維持補修に移行してもそれなりの仕事はあると考えている。しっかりとした経営をすれば五輪後も乗り切れるだろう。